NO.45

2023年3月

学校図書館 司書だより

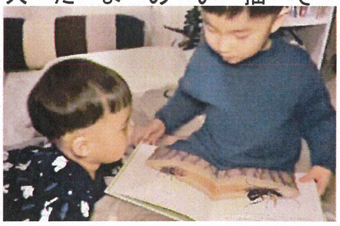
『私と読書』

美濃加茂市長　藤井　浩人

夜遅く家に帰り寝室をこっそり覗くと、妻が子どもたちに絵本を読み聞かせ。そんな様子を見るとどこかほっとして温かい気持ちになります。そこで我慢できずに、張り切って私も参戦してしまうと「寝るところだったのに…」と妻に呆れられてしまいますが。

ユーチューブやゲーム、テレビが子どもたちの身近にある現在、本を読むこと、読み聞かせることは何故大切なのか。それには様々な答えがあると思いますが、子どもたちの表情を見ているだけでもそのワケが分かる気がします。

映像表現には多くの良さがありますが、その情報量の多さが私たちから考える機会を奪い、受け取る、眺める時間となってしまっているとも言えます。それに比べ、本を読むという行為には主体性が必要です。字を読むことも当然ながら、読み聞かせにおいても頭の中ではストーリーや描写を想像します。本を読んでいるときの子どもたちは多くのことを想像して、考えているような顔つきをしています。また時折、子どもの口からは大人がビックリするような思いがけない言葉が飛び出します。その言葉を拾って、会話を重ねることでさらに子どもの思考力が膨らんでいくのが手に取るようにわかります。



図書館には『未来への入り口』がある

私の記憶にある本との出会いは、小学校中学年の時でした。小学校の図書館には歴史マンガがぎっしり詰まった本棚があり、何がきっかけかは分かりませんが友達と競い合うようにして歴史マンガを読み漁りました。戦国武将はさることながら"勝海舟"、"大石良雄（内蔵助）"、"平賀源内"などなど小学生ながらにして歴史マニアのように歴史の沼にはまっていきました。歴史が好きとか、漫画が好きとかいう理由ではなく、図書館のその一角に強く惹かれたということが全ての始まりでした。インターネットを使うことで、調べたいものや興味があるものについての情報はどんどん集まってきますが、図書館という場所に足を運ぶからこそ出会うことができる未来への入り口があるのだと思います。

現在のんびり読書に耽る時間はなかなかありませんが一か月に数冊は手に取るように心がけています。ついついスマホを覗きたくなる時間にも本を手に取れるように、私のカバンのポケットにはいつも一冊の本が入っています。

また、市役所の幹部会議では毎月、交代で本を紹介し、同じ本を読む機会を設けています。その目的は、変化の速い時代に対応するために共通の知見を得ることだけではなく、お互いの価値観を共有することにあります。一人ひとりが各月の課題本を紹介し、一冊の本に対して各々が意見を言い合うことで、その人の人生観や物事に対する視点が見えてきます。同じ本を読んでいても、大切だと思って線を引くところや、印象に残ったページは大きく異なり、読む人のそれまでの人生経験や読解力、思考力が思いがけない感想を引き出すのです。本が情報を得るだけのものではなく、コミュニケーションの手段としてもっといろいろな場面で利用されても良いのではないでしょうか。

市民の皆さんとも同じ課題図書を設定し、互いの感想を共有し、考え方を尊重できるような機会を持つことができたらと思います。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

藤井市長のお子さんたちが今興味を持っているのは、大仏と昆虫の本だそうです。

☆図書館クイズ☆

おはなしりょうりきょうしつシリーズの『こまったさん』。全十巻の中で作っていないメニューはどれ？

①　からあげ　②　サラダ　③ラーメン

読書タイム

あまちの森文庫

あまちの森　加茂野交流センターの新築に伴い、『あまちの森文庫』が発足しました。

最初は数名の、本が好きで本から広がる魅力に惹かれているメンバーが、何もないところからどんな方向性でどのように本を収集するかなどを話し合い、進め方を決めました。まずは壁全面の本棚をいっぱいにしようと、美濃加茂市内や関市の図書館で使われなくなった本をいただきに行ったり、地域の方々から大切な本を寄贈していただいたりして、たくさんの本が集まりました。今では本に囲まれるまでになり、空いた棚に並べ方を工夫することから、多くの書籍をどう収めるかへと課題が変わってきました。

コロナ前まではイベントを企画して多くの方々に楽しんでいただきました。『本棚プロデューサーのたちばなし』では講演ほど堅くない、ちょっとした立ち話程度の時間で、やさしい実のあるお話を聞かせていただき、本棚プロデューサーコーナーを設けておすすめの本を展示しました。他にも『和本作り』『心文字の年賀状作り』『親子で絵本の中のお菓子作り』などを開催しました。

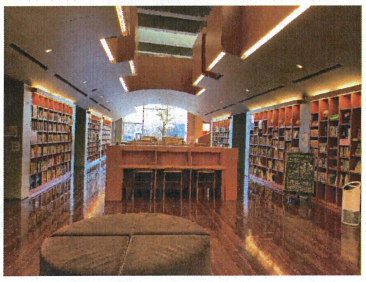
こうしたイベントにより活動をしってもらうことでメンバーも増えてきました。本とメンバーが増えたことで、かねてより念願でした本の貸し出しができるようになりました。登録料は二百円で毎月第二・第四土曜日の午前中に借りることができます。今後は毎日貸し出しができるようになることを目標としています。

メンバーは空いた時間にあまちの森へ出向き、本の整理や利用しやすい配置を工夫するなど楽しく活動しています。フェイスブックでも活動の様子を発信しています。

『あまちの森文庫』をご存じなかった方、また知っていたけれど行ったことがないという方は、ぜひ一度足を運んでみてください。にこやかで優しいスタッフがお待ちしています。

登録されている方はもちろん、登録されていない方も交流センターのフロアで読書をすることができます。明るいフロアで時にはゆったり、お気に入りの本を手にされてみませんか。

明るく開放的な空間です。



この本読んでみて！

物語

『ぼくはくまですよ』
フランク・タシュリン　大日本図書　1540円

洞くつでくまが冬眠しています。春になり地上に出てみると、なんとそこは人間たちがたてた大きな工場になっていました！そしてくまを見た人たちは、毛皮のコートを着た、ひげも剃らないとんちんかんな人間だといいます。くまはその工場で働き始めるのです。

ぼくは、くまなのに・・・。
もやもやが残れば正解です。

M.O

えほん

『ひみつのカレーライス』
井上荒野　アリス館　1540円

カレーの中から出てきた『たね』。大切に庭にうめるとぐんぐん大きくなって…。何が育つかドキドキワクワク。匂いまで伝わってくるようなおいしそうな絵本です。

読んだ日の晩ごはんはカレーに決定！

K.H

大人むけ

『子どもが「学びたくなる」育て方』
矢萩邦彦　ダイヤモンド社　1650円

図書館で本に携わっていると「探究学習」という言葉をよく目にします。近頃では自主的に学ぶことが推奨されているようです。「子どもの苦手は弱点ではない。」文字で見ると立ち止まって考えることができませんか？

この本には小学生の子どもを育てる親に向けて、学びのヒントが詰まっています。

Y.S

小説

『その本は』
ヨシタケシンスケ・又吉直樹
ポプラ社　1650円

本好きな王様の命令で“めずらしい本の話”を集めるために旅に出た二人の男…

一年後、男たちは集めた話を王様に語って聞かせる。

すべての話が「その本は…」で始まります。長さもテイストも色々な本の話と本の頁に仕込まれた遊び心。二人の人気作家の文章と絵が一緒に作り上げた“その本”をお楽しみください。

C.H

このコーナーで本を紹介しているのは、
市内の学校図書館司書３人と東図書館司書です。

☆図書館クイズの答え
①　からあげ　です！『こまったさんのレシピブック』では10種のメニューの作り方がわかりやすく紹介されています。